

阿弥陀岳北稜

2012年2月26日(日) 曇り

L磯部 s、横嶋 s

赤岳主稜の予定だったが、このところ南岸低気圧がせつせと八ヶ岳にも雪をまき散らしていたため、取り付きまでのトラバースに雪崩の心配があり、阿弥陀岳の北稜に変更した。

前夜に美濃戸口に到着。そこから美濃戸までは、この時期4WD・スタッドレス・チェーン装着の車でないと厳しい。

我がウイッシュでは、二人乗って腹を時折すりすりしながら（氷なのでそれほど心配ない）進んだ。

極端なわだちができていて、ハンドル操作しなくてもカーブでは自動的に曲がっていくくらいだ。

3列シートの後ろ2列を倒して車中泊で時間短縮。

明るくなってから出発。南沢は、すっかり雪道となり、しかも最初を除いてフラット雪面になりとても歩きやすい。

12月、1月と通ったが、最も楽だった。

行者小屋でガチャ類などフル装備。天候は思ったほど回復せず、曇りである。稜線はまだ見えているため問題ない。

文三郎道に向かって、10分ほど進めば阿弥陀方面との分岐点があり、そちらに10数m進めばすぐ右の尾根に入るトレースがしっかりついていた。

1月のコースはもう一つ西側の尾根をたどったが、こちらの方が斜度がきつくなく登りやすい。



① 北稜下部と遠くに硫黄岳・・・このコースならではの景色です



② たたずむ……

第一岩稜は、全く岩は露出せず低木混じりの雪壁となっていた。通常ザイルは初心者がいなければ必要ないが、前に2パーティいて渋滞しそうだったので、練習も兼ねてザイルを出す。木で支点を取りながら1ピッチ一杯でも壁を抜ききれず、少し斜度が緩くなったところでバケツを掘り、こしがらみで確保をする。

そこからわずかに登って、顕著な第2岩稜の取り付きとなる。

2ピッチ目は正面は避け左に少し巻いてから数mの3級岩を凹角からのっこし、先のピナクルでビレイ。前のパーティのセカンドはひざをついて登っていて、見ていて心配になってしまったが、さらに後ろから来た単独の男性が、そこを巻いて左の急雪壁をストック！を刺して（意味無い！）登っているのには驚いた。しかもピッケルはカバーを着けてザックに装着したままである。

3ピッチ目は前回フリーで越えたところだ。1月よりもホールドに氷が着き少しいやらしいが、3級岩を数m右に斜上して上に立ち、目の前3, 4mの雪のナイフリッジを慎重に通過して終了。通常ビレイ点の灌木は、雪にほぼ埋まっていたため掘り出さず、少し先に行ってスタンディングアックスビレイで横嶋さんを確保する。

このころから天気は悪化、ガスで視界は2, 30mとなる。先行パーティが阿弥陀の下りがわからず、かつ危険ということでまた北稜を下っていった。

先の単独男性は僕らに向かって「このコースおりられますかー？」と聞いてきた（生きてかえって下さい……）。ちなみに彼は御小屋尾根を下つたらしい。

これからが核心か！とりあえずすぐの頂上を踏み、再度気を引き締め赤岳方面への下りルートを探す。



③ラストピッチ、ナイフリッジにさしかかる横嶋 s



④ 阿弥陀頂上にて、ハイカモン！



⑤ ヤーナコツチャ

視界は悪いが、1月に下ったルートである。東に少しくだつて、わずかに右（東南東）に折れた記憶だ。

北西稜からきたパーティは、左に折れそこからザイルを早くも出していた。自分を信じて少し下った後、横嶋さんのGPSで確認したらこちらが正解。

わずかにトレースもあり、一步一步確実に急降下。視界がだんだんと開けてきて、コルまで2, 30Mのところには残置の懸垂支点があった。

アイゼンが効いたため、前向きで慎重に下り、中岳沢も通常は避けたいところだが、雪量・締まり具合から安全と判断し、一気に駆け下りた。

行者小屋でお湯を沸かし、コーヒータイムを取る。暖かくほっとする時間である。

横嶋さんが北沢コース未経験で赤岳鉱泉・アイスキャンデーも見たことがないということなので、そっち経由で帰ることにした。明るく広いいい道だった。

<タイム> 美濃戸(6:20)-行者小屋(8:20-8:50)-阿弥陀頂上(12:10)-美濃戸(15:50)

磯部 s 記